

午後 II 試験

問 1

出題趣旨

インターネット関連ビジネスなど、ビジネス要件の変更が多い領域において、アジャイル型開発手法を採用して情報システムを開発する事例が増えてきている。アジャイル型開発は、短期間での開発とリリースを繰り返して、ビジネス要件の変更を積極的に取り込むことによって、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しようとする開発手法である。一方で、開発の初期段階で、最終成果物、コスト、スケジュールを明確にするウォーターフォール型開発とは異なるリスクも想定される。

本問では、システム監査人として、アジャイル型開発の特徴を踏まえた上で、情報システムの開発着手前に、アジャイル型開発を進めるための体制、スキル、開発環境などが整備されているかどうかを監査する知識・能力などを問う。

問 2

出題趣旨

組織における情報システムの活用が進む中、システム監査において監査対象とすべき情報システムが増大する一方で、情報システムに関わるリスクはますます多様化している。そこで、システム監査においては、限られた監査資源の下で、効果的かつ効率よくシステム監査を実施するためのリスクアプローチに基づく監査計画の策定が求められる。監査計画の策定に際しては、監査部門以外が実施したリスク評価結果を利用することもあがるが、その場合には、監査資源の限界を補うという利点がある反面、無条件で利用することには問題もある。

本問では、システム監査人が、リスク評価の結果を利用して、適切な監査対象の選定や監査目的の設定を行うために必要な知識・能力などを問う。